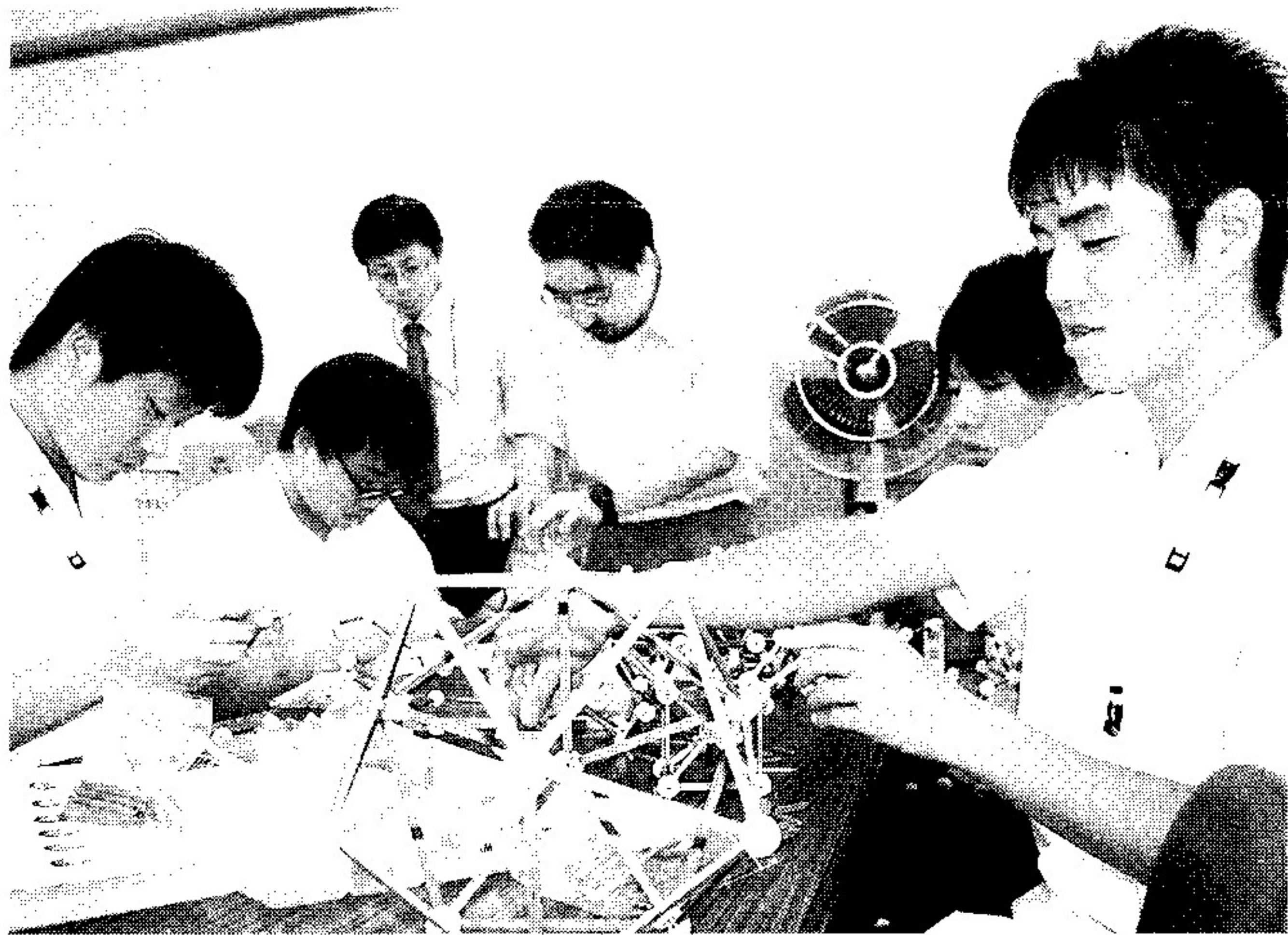


大学院研究者に学ぶ

豊明高 生徒ら面白さと再発見

数学的な洞察力や分析力の向上をと、県立豊明高校で3日、最先端の工学研究に取り組む名古屋工業大学・大学院の専門家による特別講座が開かれ、同校の生徒13人が参加しました。講座は学校と大学、企業などが連携して進める「サイエンスパートナーシップ」事業の一環で全5回。

2日めのこの日、生徒たちは幾何学模型用の教材を使い18種類の多面体づくりに挑戦。正三角形、正四角形、



大学の研究者に学ぶ高校生＝豊明高校で

類の正多角形を組み合わせた準正多面体を作りながら、空間を多面体から観察し、そこに隠れた規則性を見つけ出すことなど幾何学の

面白さに触れました。

さらにコンピュータグラフィックスを使った講義では数学的な分析と分類法を学び、多面体の頂点、辺、面の数の間にある関係式を導き出しました。

7日には同大学研究室の訪問も。「自分で見つけたルールに当てはめて答えを出せた」と満足顔の佐藤啓君。小林諒子さんたちは「答えの成否だけでなく、考える過程や方向性を評価してもらえた。大学の雰囲気にも触れることができた」と笑顔で話していました。

次回の発行は9月